

# 1 部

学習サポート

## 各種申込締切について

『試験・スクーリング情報ブック』にてご確認ください。

- ・学年暦→p. 4～5   ・通信教育部カレンダー→p. 13～15
- ・演習・実習科目関連締切等
- 社福→p. 25～28   精保→p. 29～30

## 【重要】『東北福祉大学 通信教育部ポータルサイト』のプレオープンについて

既報の通り、各種配布物でご案内していたポータルサイトをオープンいたしました。正式オープンは2025年4月となりますが、利用頻度の高い機能をご利用いただけます（「履修状況票」の確認、スクーリング・科目修了試験の申込等）。ログインページでは通信教育部からの大切なお知らせも掲載となりますので、定期的にご確認いただければ幸いです。

なお、詳細につきましては9月に郵送いたしました『【重要】ポータルサイト操作説明書』をご確認ください。

## 【重要】2025年度4月以降の冊子版の副教材について

『試験・スクーリング情報ブック2024』 p. 18で既報の通り、冊子版の『レポート課題集A・B・C』『試験・スクーリング情報ブック』『With』は2024年度（2024年3月）をもって印刷物での配付を終了いたします。その後につきましては、通信教育部ホームページにて閲覧していただく形を予定しております。

**【再掲】 2024年10月以降の郵便料金の改定について**

日本郵便株式会社（郵便局）による郵便料金が2024年10月1日(火)より改定されました。10月以降の科目修了試験のハガキ、各種スクーリング、証明書・学割の申込等の封書の切手には十分ご注意ください。

詳細は郵便局HPもしくはお近くの郵便局でご確認ください。

# 「学びを継続して進めて行く」

教員 MESSAGE

教授 田中 尚

毎年、皆さんはどのような状況で、どのような思いで大晦日に、「除夜の鐘」をお聞きでしょうか……。

恒例のNHKの「紅白歌合戦」が終わり、テレビの画面が切り変わって「ゆく年くる年」が始まると、全国のどこかの寺社の中継とともに「除夜の鐘」の音が聞こえてきて、それが自宅近くの寺院の鐘の音とシンクロしながら、「ああ、今年一年も終わるのか……」としみじみ感じ入る時間に、しばしゆだねることも多いかと思います。「除夜の鐘」の音にゆだねながら、どのような一年であったかを少なからず顧みて、年の初めに目標としたことを果たしてここまで続けて来たかどうかと反省します。

時間は容赦なく先に進み、その時間を区切るように季節が巡り、私たちの暮らしが営まれています。そして、その連続性の中で、私たちの中で何らかの「区切り」と「まとまり」の感覚によって、「継続してきたもの」を感じることがあるように思います。そこで大切なことは、何らかの「区切り」と「まとまり」をどのように意識して感じ、確認するかということにあり、「学びを継続して進めて行く」うえでの要点の一つも、そのようなところにあるように思います。山登りでは、「登った分だけ、そこで見られる景色がある」と言われます。意識して、その景色を味わうように「区切り」と「まとまり」が感じられると、「継続していく」うえでの原動力になるのではないかと思います。

また、私はかつて勤務していた職場（大学）で、ある社会福祉法人の事業所に通う若者たちから、「大学とはどんなところなの……?」「大学ではどんなことをしたり、学んだりするの……?」という声を聞いたことをきっかけに、若者たちと交流する機会を得ることになりました。彼らは、

特別支援学校の高等部や専修科などで学び、その後、その社会福祉法人の運営する就労支援事業所等に勤務していました。出会った若者たちの多くは学校を卒業した後の進路をさまざまなサポートを得ながら限られた範囲内での選択をし、一生懸命に、誠実に働いている人たちでした。しかし、学校を卒業してからの生活は家庭やグループホーム、職場という限られた範囲の生活になりがちで、自分の知らない世界があることに期待を持っている若者たちであったように思います。

そこで、定期的に若者たちと交流をさせていただき、大学の教室を活用してグループ活動を一緒に行うことになりました。グループ活動を始めるにあたり、みんなでこの交流会のグループ名を決めることになりました。その時、一人のメンバーが「この会を楽しく、満足する会にしたい」という意見が出され、そこからこの会の名称を「楽足会（らくそくかい）」とすることになりました。そして、始めた頃は、「らくそくかい」という会の名称について周囲の人や関係者に説明しても、すぐには理解してもらわず、その度に「楽しく、満足すること」をみんなで目指そうということから始まった会であることを説明していました。

そのようなことを繰り返しているうちに、「らくそく」という言葉や響きにとても深い意味と感覚を覚えるようになってきました。若者たちと交流するなかで、何気ない日常の出来事やエピソードを語りあい、「言い放し・聞き放し」であったり、みんなで相談したり、時にはレクリエーションをしたりするなかで、楽しくとは言うまでもなく、ワクワクしたり、何か心地よいものを感じることでありました。

しかし、このような楽しいという感覚を日常のなかで感じる事が、今の自分にどのようにあるのだろうかと考えたとき、それがはっきりとした輪郭のあるものとして感じる事が決して多くないことに気付くことができました。さらに、「満足する」「足りる」という感覚にいたっては、どのようなこととして自分は感じているのだろうかと考えたとき、「らくそく」

という言葉の意味する深さを感じるようになりました。

定期的に行う交流会では、それぞれのメンバーが日ごとの生活、友だち関係、仕事のことなどを楽しく、時には憂うつな気分も自由に話し合い、それらを分かち合って自分自身の思いをその人なりにまとめているように感じ、そこにも何かを続けていくうえでの源泉があるように感じていたことを思い出します。

そのような若者たちとの交流を通して、改めて、何かを継続するとは、継続そのものをこれからの目標とすることよりも、続けている過程やそのなかでのちょっとした結果をふりかえり、何らかのまとまりを感じることもあるように思います。今、取り組んでいること、これまで取り組んできたことに、よく目を凝らし、耳を澄ませてみることで、そこに何らかのまとまりを感じ、その輪郭を確認するなかで「継続すること（したこと）」を確かめ、楽しく、満足できたことを感じるなかに「継続していく」ことの大切なことがあるように思います。